

外国人保護者とその子どもたちのための進路進学ガイダンス —山梨県における取り組み—

原田かおり（やまなし子ども学習支援連絡協議会、山梨県立大学）
小林信子（やまなし子ども学習支援連絡協議会、ユニタス日本語学校）
斉藤祐美（やまなし子ども学習支援連絡協議会、山梨外国人 인권 ネットワーク・オアシス）
萩原孝恵（山梨県立大学）

実践の場の特徴 山梨県には半導体、電気部品、食品工場が集中する工業団地があるため、その周辺に日系南米人が集住している。他地域にも韓国や中国、フィリピン等の人が居住しており散在傾向にある。しかし、公共交通機関が整備されておらず移動には車が必要である。自家用車のない家庭は長距離の移動が困難である。山梨県では2015年まで外国人保護者とその子どもを対象としたガイダンスは開催されなかった。

実践の目標 目標は次の2点である。

- ・外国人保護者とその子ども、関係者への学びの場の提供
- ・できるだけ多くの人の参加

具体的な実践の内容とその過程 2014年度に、「やまなし子どもネット」という外国人児童生徒のための進路進学情報サイト（6言語対応）を開設した。2015年度に初めてのガイダンスを開催した。その際に、講師（現役教員）より年2回の開催が理想的であるという助言があり、今年度は7月と10月の開催を企画した。

ガイダンスでは高校進学の意味、特別入試、県内の高校受験制度と合否等について講師が具体的な説明をし、多言語で通訳をした。希望した保護者を対象に個別相談会・聞き取り調査を行った。周知方法は保護者の利用の多い店舗への掲示、対象者への直接配布、Facebookへの投稿等である。また教育委員会にも周知のご協力を頂いた。

結果と考察 参加者は2015年度は25人、今年度7月は30人であった。聞き取り調査では、ガイダンスに参加することで「子どもが高校へ進学できることがわかった」「公立と私立の違いが分かった」等の声が聞かれた。このことから、こうした学びの場の提供は重要であると考えられる。ガイダンスをきっかけに、子どもたちの周囲の大人が進路進学に関心を持ち、理解を深め、話し合うようになることを期待したい。なお、今後の課題は周知の方法、開催場所、参加者数の増加である。